

がんゲノム医療コーディネーターにおける臨床検査技師の役割

説田 愛弓[†] 東 樹 京 子^{*} 岩谷あゆみ 中山 晶 子^{**}
土 原 一 哉^{**} 向 原 徹^{**} 桑 田 健^{**} 国 仲 伸 男

IRYO Vol. 76 No. 5 (376–380) 2022

要 旨

国立がん研究センター東病院（当院）では先進医療B、保険診療としてのがん遺伝子パネル検査の実施を通じて、がんゲノム医療実装化のため体制を整えてきた。その一環として、臨床検査技師、看護師、薬剤師、臨床研究コーディネーター、遺伝カウンセラーからなるがんゲノム医療コーディネーター（cancer genome medical coordinator : CGMC）チームが構成され、それぞれの専門性を生かした役割を担っている。多職種が連携して業務を行っているが、その中で臨床検査技師の知識が役立ち、発揮できる場面が多く存在する。しかし、がんゲノム医療コーディネーターとして全国的に標準化された体制はない。今回、当院における検査補助説明をはじめとしたCGMCとしての臨床検査技師の役割と今後の課題や展望について報告する。

キーワード がんゲノム医療、がんゲノム医療コーディネーター、がん遺伝子パネル検査、臨床検査技師

はじめに

厚生労働省から2017年6月に報告された「がんゲノム医療推進コンソーシアム懇談会報告書」において、がんゲノム医療の提供に必要な機能を有し、がんゲノム医療の中核を担う「がんゲノム医療中核拠点病院」を整備する考え方が提示された¹⁾。2018年2月に11施設が「がんゲノム医療中核拠点病院」に選定され、2019年6月にがん遺伝子パネル検査が保険収載されたことにより、保険診療下での検査が可能となった。

国立研究開発法人国立がん研究センター東病院（当院）では、2018年4月にがんゲノム医療中核拠点病院の指定を受け、2018年7月より先進医療B「個別化医療に向けたマルチプレックス遺伝子パネル検査研究」が開始された。2019年7月からは、保険診療として「FoundationOne[®]CDxがんゲノムプロファイル」、「OncoGuide[™]NCCオンコパネルシステム」を実施している。

がん遺伝子パネル検査を実施するにあたり、患者支援ができるがんゲノム医療コーディネーター（cancer genome medical coordinator : CGMC）の

国立がん研究センター東病院 臨床検査部 *看護部 **遺伝子診療部門 †臨床検査技師
著者連絡先：説田愛弓 富山大学附属病院 病理部 〒930-0194 富山県富山市杉谷2630番地
e-mail : ahagi@med.u-toyama.ac.jp
(2021年8月13日受付, 2022年6月3日受理)

The Role of Medical Technologists in a Cancer Genome Medical Coordinators

Ayumi Setsuda, Kyoko Tojyu*, Ayumi Iwaya, Akiko Nakayama**, Katsuya Tsuchihara**, Toru Mukohara**, Takeshi Kuwata** and Nobuo Kuninaka, Department of Pathology and Clinical Laboratories, *Department of Nursing,

**Department of Genetic Medicine and Services, National Cancer Center Hospital East

(Received Aug. 13, 2021, Accepted Jun. 3, 2022)

Key Words : cancer genomic medicine, cancer genome medical coordinator, cancer genomic profiling test, medical technologist